

○今回の JAL の安全啓発センター及び整備工場の見学を通じて、御巣鷹での事故について詳細に知ることができ、航空機の装備品に関する研究を行っている 1 人の人間として、改めて気を引き締めて研究を行う必要があると感じました。特に御巣鷹での事故は設計者と修理者での認識の齟齬や確認不足などの何個もの原因が重なり、約 500 人の命を奪ってしまう事故につながったのを知り、コミュニケーションや品質管理などの徹底を行うことが大事だと感じました。しかし、ヒューマンエラーが起こる可能性というのは無くならないため、ヒューマンエラーが起こった際に問題なく安全に運行できるような基礎技術の研究やそれらを応用したシステムの開発というのを意識して今後の研究をしていきたいと思います。

○本日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。実は高校生の頃、工場見学をさせていただく機会があり、その時に将来航空業界で働きたいと心に決めていました。今回工場見学に加え安全啓発センターの見学をさせていただき、改めて将来航空業界に携わりたいと再確認した次第です。特に印象に残ったことは、安全啓発センターを見学した際、実際の事故機の一部そして機内で書き留めた乗員乗客のメモです。日本航空 123 便の事故についてはテレビやネットの記事で見たことがあったものの、あまり実感は湧いていませんでした。しかし、「3 現」の内の 1 つ「現物」を目の当たりにすることで、いかに悲惨で二度と繰り返してはいけない事故であるということを実感しました。死者を出してしまった事故を忘れないためにも、このようなセンターを設立し後継者に伝えていく姿勢に感銘を受けました。私も今後航空業界に携わるならば、いかに小さなミスが多く命を奪うことにつながることを胸に刻み、行動していきたいと考えました。

○見学会を通して感銘を受けた点がいくつかあります。

1 点目はガイドさんの説明の上手さです。我々学生は毎週、研究進捗の報告会を行うのですが、聴衆に伝えるプレゼンテーション能力が不足していると常々感じていました。そんな中、かなりの量の説明を暗記し自分の言葉で話している姿は私の目に格好良く映り、彼女のように私も話すことができるようになりたいと感じました。

2 点目は御巣鷹山事故の際の CA さんのメモ書きです。その CA さんは空の上で操縦不可の状況の中、着陸後の案内についてメモをしていました。最後まで業務を遂行しようとするプロフェッショナルさによって絶望感・悲壮感が際立ち、この教育を受けた社員の方々に深く突き刺さる素晴らしい展示だと感じました。

この度は素晴らしい見学会に参加させていただき、誠にありがとうございました

○123 便の事故がモデルとなった小説を以前に読んだことがあり、事故についてはある程度の知識がある状態での見学となったが、破損した機体の一部や 6 時 56 分を指したまま動かなくなった時計、それから、遺族への手紙等の数々の“現物”を目の当たりにし、事故の重さを改めて感じる事となった。これらの展示物は、単なる情報以上のものであり、事故が

多くの命やご遺族の方々の未来に与えた影響を、言葉では表現しきれないほど強烈に伝えるものであった。今回の見学を通して航空安全の重要性や、過去の教訓を未来につなげる意義を深く考えさせられた。ここで得た学びを、今後の研究活動や就職先での職務に活かしていければと思う。

○安全啓発センターでは主に 123 便の墜落事故に関してご説明いただき、その悲惨さや教訓を直に感じ取ることができました。遺族の方々の遺品や残したメッセージを展示することで、事故を風化させることなく今後の安全対策につなげる JAL の姿勢に心を打たれました。整備工場では普段なかなか見ることができない距離で航空機の整備の様子を見ることができ、その迫力に圧倒されました。普段学ぶことの少ない知識もご教示いただき有意義な時間となりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

○私は日本で過去に起きた飛行機の事故についての知識があまりなく、123 便の事故については多少見聞きしたことがあった程度でしたので、今回の安全啓発センターでのお話や見学させていただいたものはどれも初めて知るもので大変貴重な経験になりました。123 便の事故原因が指示とは異なった修理をしていたためだとお聞きしてなぜそのようなことになってしまったのか質問したところ、ボーイング社の行った修理で日本の調査では明確なことは分かっていないと聞いて自分もとてもやり場のないような気持ちになりました。また破損したシートを見て、その衝撃の大きさを肌で感じ航空機における安全性の大切さをより一層実感しました。整備工場見学では整備の内容だけでなく 5 つの部門に分かれているという組織体系の説明や勤務時間の話などもしていただき、どのように航空機の整備をしているのかを知ることができました。そして何より整備中の航空機を間近で見ることができてとても興奮しました。今回の見学を通して将来航空産業で働きたいという意思がより強くなり、自分の将来についても考える良いきっかけとなりました。

○先日、JAL の安全啓発センターと整備場を見学するという非常に貴重な機会をいただきました。安全啓発センターでは、過去の航空事故から得られた教訓をもとにした展示を通じて、JAL が安全に対していかに真摯に向き合い、取り組んでいるかを深く理解することができました。現在、私は小型機の航空事故調査を効率化・高精度化するシステムの研究を進めていますが、今回の見学を通じて研究の意義を改めて実感し、航空機の安全向上に貢献したいという思いがさらに強まりました。また、整備場では、飛行機の整備がいかに高度な技術と細心の注意を要する作業であるかを学びました。航空機が安全に運航する裏には整備士の方の膨大な努力があることを改めて理解しました。これらの経験を通じて、安全を守る重要性を再確認する事ができました。

○安全啓発センターと整備棟の見学をさせて頂き、どうもありがとうございました。参加し

た学生たちも非常に刺激を受けたようで、活き活きとしておりました。得難い体験のチャンスを賜り、重ねてお礼申し上げます。私個人としましては、もちろん実機の整備の様子も非常に興味深かったですが、航空の研究をやってきておりますので、整備工場を見たことも度々あり、やはり初めて目にしたものとしては、御巢鷹山の事故の機体残骸や遺品には、非常に考えさせられるものがありました。ひと昔前には、飛行機は墜ちるかも知れないから怖いという人が一定数いましたが（いまでもいますが、昔より減ったように思います）、クアラルンプール、アンカレッジ、羽田沖、御巢鷹山あたりの事故があった時代に生きていた世代にとっては、もちろん海外の会社の事故もありましたし、割と頻繁に飛行機は墜ちるという印象を持っても仕方なかったかも知れません。しかし、その後、JAL が安全運航を徹底し、大きな事故を起こさずにきたからこそ、飛行機に対する信頼が上がっているのだと思いました。航法装置や管制の技術的革新もあると思いますが、事故を反省し続けていることがやはり安全に繋がっているのだと思いました。ありがとうございました。

○羽田空港の安全啓発センターと整備場を見学して、安全のために部品を細かく点検することや繰り返して見ることが重要であると感じた。安全啓発センターでは、123 便の尾翼部分の見学をさせていただいた。機体がいとも簡単にバラバラになるほどの衝撃が加わったことが感じられる展示であった。尾翼欠落の主因となった圧力隔壁も見学したが、その補修は、正面の見た目では不適切修理と適切な修理の見分けはつかなかった。しかし、板同士の接合のリベットが 1 列だけだったことによって疲労破断が生じる結果となったことから、細かい点検をしていれば安全性に問題があることがもしかしたら判明したのではないかと感じた。自分の研究においても、細かいところまで部品を調べた結果、装置故障の原因突き止めることができたという経験から、点検と調査がより注意しなければならないことであるという感想を持った。

日本航空の整備場も見学させていただいた。航空機の点検整備が行われている現場を目の前にし、その技術を知ることができた。印象に残ったのは航空機のタイヤ部分と燃料タンクであった。自身の研究はタイヤの軸部分のブレーキの研究であり、実際の大きさがどのくらいであるかを見学し、今後の応用を考えることができる機会となった。また、直線安定のためにタイヤの溝が 1 方向しかないことも説明していただき、現場レベルで自分たちが知らないことを知識として蓄積できたことは意味のあるものであると感じた。燃料タンクは主翼の空洞部分にあり、人が入って点検していることを説明していただいた。燃料の匂いが取れなくなるほどの環境での作業であると知ったが、細かい点検は重要であるから安全運航のためには必要不可欠であると感じた。また、翼端付近にある穴は余剰燃料を捨てるためのものであると教えていただいた。これも航空機に関して自分が知らなかった要素であり、知識として頭に入れておくことができた。今後の自分には仕事をするうえで現場レベルの知識が必要になってくると考えているが、今回の見学ではその一片を実際に肌感覚で感じることができた。今回の見学で積み上げた知識を研究活動や仕事に活かせる時が来るかは不

明だが、その時のために今回の経験を覚えておきたいと感じた。

最後に、今回の見学会を開催していただいた篠崎コーディネーター並びに矢古宇さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

○安全啓発センターでは点検を外観からだけではなく、内部の状態まで確認することや修理内容といったことをメーカー任せにするのではなく、使用者自身も確認することが重要であると感じた。また、設計においては高性能、高効率の追求と同時に冗長性や安全性の確保も念頭に置く必要があると思う。格納庫での飛行機の解説では炭素繊維とアルミでは塗装の重要度が異なることなどを知ることができた。

○123 便の事故は胸に突き刺さります。520 名もの命が絶たれてしまった悲劇がヒューマンエラーに因って発生したという事実、いかに日々緊張感を持って事に臨むことが必要なことであるか、改めて心に思うところです。学生の皆さんが、感性豊かな年齢で、これから社会に巣立っていくというタイミングで、この経験をされたことは、これから送っていかれる人生に非常に役立つことであろうと思います。